

Japanese Patent Application Laid-Open No. H11-006355

Publication Date: January 12, 1999

Applicant: Okamura Corp.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-6355

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月12日

(51) Int. Cl. <sup>6</sup>

E05D 5/16

F16F 1/36

識別記号

F I

E05D 5/16

F16F 1/36

Y

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-156648

(22) 出願日 平成9年(1997) 6月13日

(71) 出願人 000000561

株式会社岡村製作所

神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号

(72) 発明者 加藤 雅己

横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社

岡村製作所内

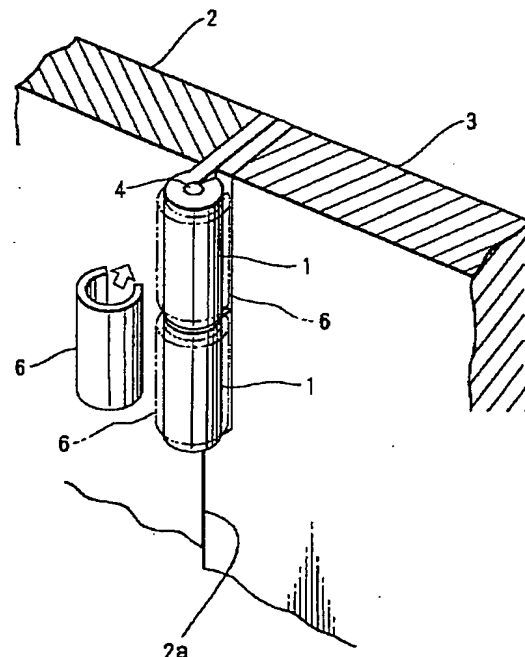
(74) 代理人 弁理士 竹沢 荘一 (外1名)

(54) 【発明の名称】 移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置

(57) 【要約】

【課題】 移動間仕切りを重畳した際、パネルに設けたドアの蝶番部材の外面が、他のパネルの表面に直接当たって、音を発したり、パネルを傷つけたりすることがないようにする。

【解決手段】 適数のパネル2を連設してなる移動間仕切りにおいて、パネルに設けたドア3の蝶番部材1の外面の少なくとも一部に、緩衝材6あるいは7を装着する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 適数の間仕切りパネルを連設してなる移動間仕切りにおいて、ドアを備えるパネルを重畳して収納した時、ドアの蝶番部材の外面が、他のパネルの表面に直接当たらないように、前記蝶番部材の外面の少なくとも一部に、緩衝材を装着してなる移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置。

【請求項2】 緩衝材は、C形断面を有する筒状のものである請求項1記載の移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置。

【請求項3】 緩衝材は、C形断面の短筒体の一端を蓋片で閉じたものであり、ドア蝶番軸部の上下端部に嵌合されている請求項1記載の移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置。

【請求項4】 緩衝材は、ゴムあるいは多孔質樹脂からなることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ドア付き移動間仕切りパネルにおけるドアの蝶着装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】移動間仕切りでは、多数のパネルが、天井に吊設された走行レールに吊支され、間仕切りするときは、各パネルは走行レール上に一直線に並べられるが、収納するときには、各パネルは、収容区域に移動させて走行レールと直角方向に重畳して並べられる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】間仕切りパネルに、蝶番により開閉せられるドアが付いていると、その蝶番部材は、ドアを90度以上回転させるために、パネル面から突出していなければならない。そのため、パネルを重畳して収納したときには、蝶番部材が他のパネルの表面に当たり、音を発したり、傷をつけたりすることがある。

【0004】本発明は、以上のような問題点を解決するために、突出している蝶番部材が他のパネルの表面に当たっても、音を発したり、傷が付いたりすることがないようにした移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明によると、上記の課題は、次のようにして、解決される。

(1)適数の間仕切りパネルを連設してなる移動間仕切りにおいて、ドアを備えるパネルを重畳した時、ドアの蝶番部材の外面が、他のパネルの表面に直接当たらないように、前記蝶番部材の外面の少なくとも一部に、緩衝材を装着する。

【0006】(2)上記(1)項において、緩衝材を、C形の断面を有する筒状のものとする。

【0007】(3)上記(1)項において、緩衝材を、C形

断面の短筒体の一端を蓋片で閉じたものとし、蝶番部材の上下の端部に嵌着する。

【0008】(4)上記(1)～(3)のいずれかの項において、緩衝材を、ゴムあるいは多孔質樹脂からなるものとする。

## 【0009】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置の一例を示す斜視図であり、説明の便利のために、ドア用蝶番部材(1)の上端面で、間仕切りパネル(2)とドア(3)を横断して示してある。

【0010】ドア(3)は、間仕切りパネル(2)に切設した上下に長い角形開口(2a)間に詰め込まれ、上下に対をなして並ぶ複数組の蝶番部材(1)(1)をもって、角形開口(2a)の一側縁に枢着されている。

【0011】移動間仕切りのドア(3)は、間仕切りパネル(2)に対して90度以上の回転角で回転できるようにされており、そのために、蝶番軸(4)ひいては蝶番部材(1)は、間仕切りパネル(2)及びドア(3)の表面より突出している。

【0012】間仕切りパネル(1)を、図3に示すように、一直線に展開した状態から、パネル部(5)を重畳して、2点鎖線で示すように収納すると、蝶番部材(1)は、パネル(2)の表面より突出しているため、次位のパネル(2)の表面に当たる。そのため、蝶番部材(1)の硬質の外面が、次位のパネル(2)のパネルの表面を傷付けるおそれがあり、また衝突音を発生する。

【0013】そのため、図1の2点鎖線で示すように、蝶番部材(1)の円筒形外面の全面にわたって、筒状緩衝材(6)を被せてある。

【0014】緩衝材(6)は、C形断面の筒状体で、適度の弾性と柔軟性を有する材料、例えば、ゴム、多孔質樹脂、発泡ウレタン樹脂またはスポンジ状樹脂等からなっている。そのため、間仕切りパネル(2)を重畳にして、蝶番部材(1)が他のパネル(2)の表面に当たっても、音を発したり、傷をつけたりすることはない。

【0015】C形断面を有する筒状緩衝材(6)を、ドア蝶番部材(1)の外形に嵌着させる際に、さらに、その内面に接着剤を塗っておりて嵌着すると、より強固に嵌着された緩衝材(6)を有するドアの蝶着装置が得られる。

【0016】図2は、本発明のドアの蝶着装置の他の例を示す図1と同様の斜視図であり、図1と同様の部材には、同一の符号を付してある。上下に並ぶ蝶番部材(1)(1)の上下の端部に、短筒体の緩衝材(7)を嵌合してある。

【0017】この緩衝材(7)も、図1の緩衝材(6)と同様の材料からなり、C形断面の短筒体(7a)の一端を、蓋片(7b)で閉じたものである。

【0018】図2のものにおいても、図1のものと同様の作用効果を発揮することは明白であり、かつ、図1のものに比して、安価となるとともに、蝶番部材(1)への

脱着が容易である。

【0019】短筒体(7)も、上記の緩衝材と同様の材料を用い、また、その嵌着すべき内面に接着剤を予め塗っておき、嵌着させると、上記の同様に強固に結合した緩衝短筒体(7)を有するドアの蝶着装置が得られる。

【0020】

【発明の効果】本発明のドアの蝶着装置によると、次のような効果が得られる。

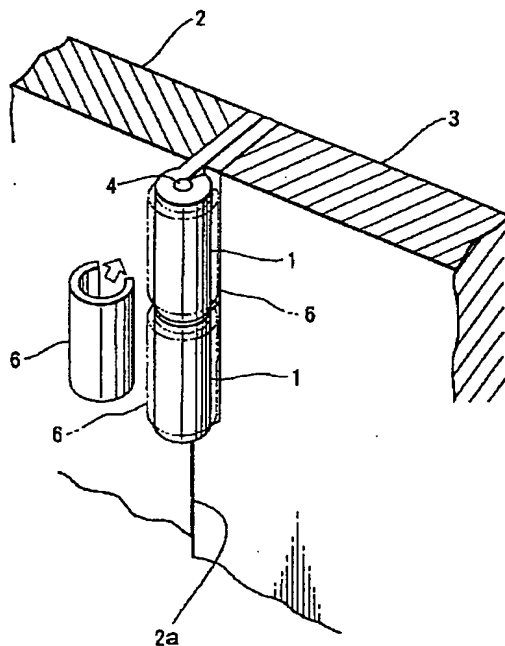
(1) ドアの蝶番部材の外面の少なくとも一部に、衝材を装着してあるため、間仕切りパネルを重畳にしたときに、蝶番部材の硬い外面が、他のパネルの表面に当たって、これを傷つけたり、音を発したりすることはない。

【0021】(2) 請求項2の発明によると、緩衝材の蝶番部材への着脱が容易である。

【0022】(3) 請求項3の発明によると、緩衝材の蝶番部材への着脱は、より容易となるが、緩衝材を安価にすることができる。

【0023】(4) 請求項4の発明によると、緩衝材を安価に製造することができ、かつ、その着脱は容易であるとともに装着時の把持性は良好となる。

【図1】



【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の移動間仕切りにおけるドアの蝶着装置の一例を示す斜視図であり、蝶番部材の上端面で間仕切りパネルとドアを横断して示す図である。

【図2】同じく他の例を示す図1と同様の図である。

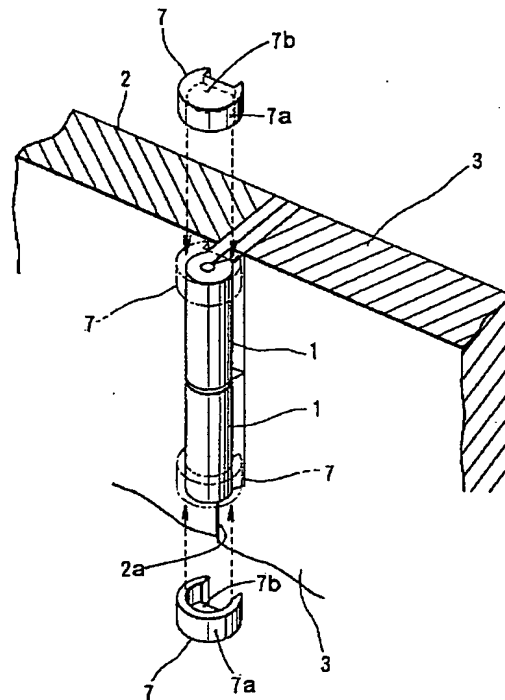
【図3】本発明によるドアの蝶着装置を備える移動間仕切りの作動を模式的に示す平面図である。

【図4】本発明によるドアの蝶着装置を備える移動間仕切りの正面図である。

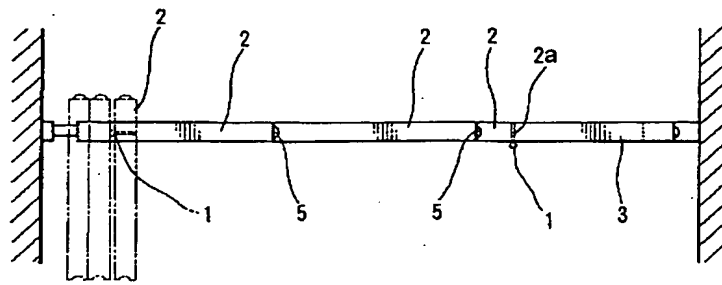
【符号の説明】

- (1) 蝶番部材
- (2) 間仕切りパネル
- (3) ドア
- (4) 蝶番軸
- (2a) 角形開口
- (5) 連結部
- (6) (7) 緩衝部
- (7a) (7a) 短筒体
- (7b) 蓋片

【図2】



【図 3】



【図 4】

